



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	『聖書聖書協会共同訳』（近刊）その特色と意義
Author(s)	阿部，包
Description	日本基督教学会北海道支部2018年度公開シンポジウム「聖書『聖書協会共同訳』（近刊）：その特色と意義」。2018年7月16日。北星学園大学，北海道。
Citation	日本基督教学会北海道支部公開シンポジウム記録，5，55-62
Issue Date	2021-03-20
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/95142
Type	conference paper
File Information	jscsh_005_55.pdf



『聖書 聖書協会共同訳』（近刊） その特色と意義

阿部 包¹

『聖書 聖書協会共同訳』は、プロテスタント教会の方々には比較的よく知られているように思うが、残念ながらカトリック教会ではそれほど知られていない。

『聖書 新共同訳』初版は 1987 年の出版である。これは、先行して出版された『共同訳』新約が頓挫した（1978 年）ため、翻訳方針を大幅変更して進められた翻訳。エキュメニズムの潮流という点では、今回の新しい聖書も新共同訳の延長線上にある。

『聖書 聖書協会共同訳』の翻訳作業の特色

・ PC 時代の聖書翻訳：

平均的日本人のリテラシーの基礎が前回の新共同訳の時代とは大きく異なっている。

・ 新翻訳事業が採用したスコ-pos理論

翻訳作業の初めから、翻訳担当者はスコ-pos理論²に基づいて「礼拝（典礼）で用いる」にふさわしい日本語訳聖書を目指して作業を進めた。わたしの場合は、当初、原語担当者として参加したが、最初から典礼における使用を念頭に置きながら翻訳

¹ 藤女子大学特任教授。原語担当（新約・旧約統編）、翻訳者委員会委員・編集委員会委員（新約）

² スコ-posは「目的、目標」を意味する。目的によって翻訳も異なり、目的が定まれば翻訳の方向も決まる。今回の新翻訳事業はその目的を「礼拝（典礼）で用いる」ことに定めた。

作業を進めた。作業はかなり困難を伴うものではあったが、カトリックのミサにおいて朗読される状況を思い浮かべながら翻訳を進め、「聴いて理解できる」ことと原語のニュアンスを日本語に置き換えることとの両立を可能な限り図ることに精力を注いだ。

・新翻訳事業共通のソフト Paratext。

翻訳担当者（原語・日本語）、翻訳者委員会³委員、編集委員会委員が、今回の新翻訳事業共通のソフト Paratext に常にアクセスできる状態が維持されたので、各担当者は関連個所の最新の翻訳状況を常に確認しながら作業を進めた。個人的には、Paratext 使用の恩恵は想像以上に大きかったと感じている。途中から導入された Skype との連動も重宝した（北海道の原語担当者と東京の日本語担当者が対話しながら、常に同一画面上で共同作業を進めた。時には、聖書協会の会議室と石狩の自室とを結んで委員会に参加させてもらったこともあった）。

・翻訳作業は最初から原語担当者と日本語担当者とがペア（チーム）を組んで進められた。

これは新翻訳事業で初めて採用された方式である。わたしがペアを組んだのは牧師、大学教員（哲学、ドイツ語学）、詩人だった。この他、歌人、日本語学者、日本文学者をはじめ多様な陣容で翻訳が進められた。

・翻訳部職員（3人体制）⁴が各文書の翻訳の進捗状況に応じて、旧約部門、新約部門、旧約統編部門それぞれの訳語一覧の閲覧を可

³ 当該文書担当者2名に他の翻訳担当者2名（原語および日本語）が加わり、翻訳部担当職員も同席して検討を重ねる委員会。研究の進展で解釈が変わっている重要な句など、中々結論が出ずに2つの訳語を併記して編集委員会に判断を委ねる場面もあった。

⁴ それぞれが主に旧約、新約、旧約統編を分担した。

能にしてくれたお蔭で、関連する文書間の訳語調整が容易になった。

翻訳作業の進捗に合わせて、定期的に旧約部門、新約部門、旧約統編部門の訳語対照表（エクセル・ファイル）が配布され、適宜、訳語検討委員会が招集され、訳語確定が困難とされた用語について検討が重ねられた。その結果はその都度、翻訳担当者、翻訳者委員会委員にもフィードバックされた。

・朗読チェック、外部モニター、パイロット版の活用

翻訳担当者（原語・日本語）チームの最終稿（第3稿）は、翻訳者委員会で検討されて翻訳者委員会稿（第4稿）に纏められる。第4稿は一旦、朗読チェックに付され、その担当者2名⁵から寄せられた疑問・意見を再度翻訳者委員会が検討する。その結果を反映させたものが朗読チェック稿（第5稿）。第5稿を検討するのは編集委員会である。この段階には、関連専門分野からの助言の検討もなされる。編集委員会は第6稿を纏め、それがパイロット版として分冊で一定期間読者に供され、読者から寄せられた疑問・意見および外部モニターの意見を検討して最終稿（第7稿）を作成する。第7稿が理事会に提出される版である。理事会が承認した版が印刷に付される完成稿（第8稿）ということになる⁶。

新約聖書の部の特色と意義

⁵ 役割は朗読者としての読みやすさのチェックと聴き手（会衆）としての聴きやすさのそれ。

⁶ このような翻訳作業の一連の流れについては、日本聖書協会ホームページの「聖書協会とは」のバナーをクリックし、「JBSのはたらき」の「発行物のご案内」をクリックして「SOWER（ソア）」の「バックナンバー」から「No.41 新翻訳事業 標準（Standard）となる新聖書を求めて」6頁に掲載されている図を参照。

今回の翻訳の新約聖書について、考えてみたい。

新翻訳事業が開始された当初、翻訳部は、『新共同訳』の訳文を基にしつつ、研究の進展に伴って解釈が変わった個所や『新共同訳』の訳文が原語の意味から離れてしまっている個所、日本語としての分かりやすさを重視したために表現が冗長な（説明的な表現になっている）箇所などの改訳を中心に翻訳作業を進めるという方針だったと記憶している。

訳語の改定で、わたしも検討の議論に加わったものに、「掟」→「戒め」の変更がある。原語は、エントレー ἐντολή（新約 67：福音書 26／使徒 1／パウロ 9／他の書簡 29／黙示 2）である。

最後の最後まで訳語決定に手間取ったのはピステイス πίστις である。これはパウロ理解の最大のキーワード、訳語決定は永遠の課題と言ってもよい。問題はローマ 3：21～31⁷の文脈において、ピステイス・イエスー・クリストゥーという句も含めてどう訳すか、である。わたしの基本的理解は「人が義とされるのはイエス・キリストのピステイスをとおして」以外にはない、というもの⁸である。当初新約部会において提案された訳語は「信実」⁹であった。背景には、「イエス・キリストの」という属格を対格的用法とは解しないという近年の研究の動向がある。訳語「信実」の一番の問題は「礼拝（典礼）で用いる」という目的に合致しないことだった。繰り返し

⁷ ガラテヤ 3：21～26 も同様の問題をはらむ箇所。

⁸ 新翻訳事業の新約部会においても、ここまでは全体の了解事項となった。ピステイスをイエスについても「信仰」と訳し得るという点については、大半の委員が反対した。わたしは「イエス・キリストの信仰は十字架上的死の受容に極まる」と解する。

⁹ 当初、訳語「誠実」を提案していた浅野淳博氏は『NTJ 新約聖書注解 ガラテヤ書簡』（日本キリスト教団出版局、2018/11）において、「信頼性」に修正した。

行われた検討会議はその都度暗礁に乗り上げた。従来慣れ親しんできた「イエス・キリストへの信仰」に戻せ！そうしなければ不買運動も辞さないぞ！という訴えまでもたらされた。

結果として、パイロット版は暫定的に「信実」と「信仰」の併用を維持した結果、「イエス・キリストの信実」(22 節)、「その信実によって」(25 節)、「イエスへの信仰に基づく者」(26 節)、「信仰の法則」(27 節)、「信仰によって義とされる」(28 節)、「神は割礼の者を信仰のゆえに義とし、無割礼の者をも信仰によって義としてくださる」(30 節)、「信仰によって律法を無効にする」(31 節)となっている。(「イエスの信実に基づく者」が望ましい)

今回の翻訳の大きな特徴の 1 つに、脚注を採用した点がある。上掲箇所にはそれぞれ「別訳」としてもう 1 つの可能性が指示されている¹⁰。手にした読者は脚注を大いに活用してほしい。もしかすると、脚注の採用は今回の翻訳の最大の利点かもしれない。

パイロット版発行以後、「信実」を「真実」に変更する案が了承され、当該の文脈においては「真実」と「信仰」が併用されることになった。しかし、何節までを「真実」とし、何節からを「信仰」とするかも解釈者によって見解が分かれるはずである。なぜなら、人がピステイスによって義とされるという点で見解は一致しても、そのピステイスがキリストのそれなのか、われわれのそれなのかで、分かれるに違いないからである。訳し分けは困難性を払拭し切れないのである。

さらに、ピステイスの訳語として「真実」を採用することによって、これとは別の問題も生じる可能性がある。それは、ἀλήθεια の訳語との関係である。パイロット版の段階で、ローマに 2 箇所「真

¹⁰ 例えば、26 節には、別訳「の信実に」とある。26 節は本文と脚注を入れ替えるべきであろう。

実」が訳語として現れる。「わたしはキリストにあって真実を語り」(ローマ9:1)、「キリストは神の真実を現すために」(15:8)、その他1コリント5:8、13:6、2コリント7:14(2箇所)、12:6、フィリピ1:18で「真実」の訳語が使われている。文脈的に問題は全くないとはいえ、やはり、ある単語を文脈によって訳し分けることによって生じる避けられない齟齬であろう。

最後に、訳語の統一が上手く行った具体例として、ミステリーオン μυστήριον の訳語比較表をご覧いただきたい。一言だけコメントを加えると、ヨハネ黙示録における訳語は、本文と脚注とを入れ替えるのが望ましいと思われる。

書名 箇所	新共同訳	フランシスコ 会訳	聖書協会共同 訳
マタイ 13:11	天の国の秘密 ¹¹	天の国の秘義	天の国の秘義
マルコ 4:11	神の国の秘密	神の国の秘義	神の国の秘義
ルカ 8:10	神の国の秘密	神の国の秘義	神の国の秘義
ローマ 11:25	秘められた計画	神秘	秘義
ローマ 16:25	秘められた計画	神秘	秘義
1コリ 2:1	秘められた計画	神秘	秘義
1コリ 2:7	神秘 ¹²	神秘	秘義
1コリ 4:1	秘められた計画	神秘	秘義
1コリ 13:2	神秘	神秘	秘義
1コリ 14:2	神秘	神秘	秘義

¹¹ これらマタイ、マルコ、ルカは並行記事。

¹² 隠されていた神秘としての神の知恵 θεοῦ σοφίαν ἐν μυστηρίῳ, τὴν ἀποκεκρυμμένην

1 コリ 15 : 51	神秘	神秘	秘義
エフェソ 1 : 9	秘められた計画	神秘	秘義
エフェソ 3 : 3	秘められた計画	神秘	秘義
エフェソ 3 : 4	この計画	神秘	秘義
エフェソ 3 : 9	秘められた計画	神秘	秘義
エフェソ 5 : 32	神秘	神秘	秘義
エフェソ 6 : 19	神秘 ¹³	神秘	秘義
コロ 1 : 26	秘められた計画	神秘	秘義
コロ 1 : 27	秘められた計画	神秘	秘義
コロ 2 : 2	秘められた計画 ¹⁴	神秘	秘義
コロ 4 : 3	秘められた計画 ¹⁵	神秘	秘義
2 テサ 2 : 7	秘密 (の力)	秘められた (力)	秘密 (別訳 : 秘義)
1 テモテ 3 : 9	秘められた真理	神秘	秘義
1 テモテ 3 : 16	秘められた真理	神秘	秘義
ヨハ黙示 1 : 20	秘められた意味	秘められた意味	秘められた意味 (秘義)
ヨハ黙示 10 : 7	秘められた計画	神秘	秘義
ヨハ黙示 17 : 5	秘められた意味の	秘められた意味をもつ	秘められた意味 (秘義)
ヨハ黙示 17 : 7	秘められた意味	秘められた意味	秘められた意味 (秘義)

¹³ 福音の神秘 *τὸ μυστήριον* τοῦ εὐαγγελίου

¹⁴ 神の秘められた計画であるキリスト *τοῦ μυστηρίου* τοῦ θεοῦ, Χριστοῦ

¹⁵ キリストの秘められた計画 *τὸ μυστήριον* τοῦ Χριστοῦ

新共同訳／フランシスコ会聖書研究所訳／聖書協会共同訳を比較すると、訳語の統一性という観点からは、大幅改善と評価してよいと思う。なお、この表は、分冊で発行されていたパイロット版の訳語に基づいているため、本年（2018年）12月出版予定の完成版においては若干の修正が既に入っている可能性がある。

表の右側の欄の下の方に（ ）の中に（別訳：秘義）、あるいはただ（秘義）と入っている個所があるが、それらは今回の聖書協会共同訳の大きな特徴の一つ、脚注欄の創設と関係している。上記の箇所はいずれも（ ）内の語が別訳として脚注に指示されていることを指す。個人的には、もしかすると、本文の訳語と脚注の別訳とを入れ替えた方がよかったのではないだろうか。

なお、この脚注欄において指示されるのは、別訳の他、直訳、異読など、本文の意味をより詳細に読み取るために役立つ情報である。読解を深めるために大いに活用してほしい。

（あべ・くるみ 藤女子大学特任教授）